

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 動物看護・管理学科(3年制) 動物看護専攻) 令和6年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			生命倫理・動物福祉	働く犬について理解を深め、人と動物の関係を学ぶ	1通	30		○			○				○
○			動物形態機能学Ⅰ	小動物の体の構造と機能を理解する	1後	60		○			○		○		
○			動物行動学	犬の行動学を学び、適正使用と正しいしつけを理解する	1通	30		○			○		○		
○			動物愛護・適正飼養関連法規	動物や獣医療に関連する様々な法規について学ぶ	1前	15		○			○		○		
○			動物看護学概論	動物看護学倫理・概念、動物看護過程について基本を学ぶ	1通	30		○			○		○		
○			動物感染症学Ⅰ	犬・猫に寄生する寄生虫について理解し予防と看護に活かす	1通	60		○			○			○	○
○			公衆衛生学	公衆衛生の基本的な考え方を理解し社会一般への疾病予防を目的とする	1通	60		○			○		○		
○			動物内科看護学Ⅰ	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な知識を学ぶ	1通	45		○			○		○		
○			動物臨床検査学	臨床検査学実習に向けて、生体検査・検体検査概論を学ぶ	1前	30		○			○		○		
○			愛玩動物学	犬・猫以外の小動物について適正飼育と主な疾患を理解する	1通	60		○			○		○		
○			人と動物の関係学	犬・猫の新生子から老齢までの各ステージの総論を学ぶ	1通	30		○			○		○		
○			動物内科看護学実習Ⅰ	動物看護の基礎知識と手技の習得を目標とする	1通	60				○	○		○		
○			動物臨床検査学実習Ⅰ	手術についての一連の手順を理解し、看護援助の基本を学ぶ	1後	30				○	○		○		
○			動物愛護・適正飼養実習	愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を習得する	1通	60				○	○		○		
○			動物看護総合実習Ⅰ	動物病院で看護実践を学び、病院内業務の補助を行う	1後	45				○		○	○		○
○			特別授業Ⅰ	学校行事、特別セミナー、卒業生講話など他者との関わりを重点とする	1通	203			○		○		○		
○			動物栄養学	犬猫に必要な栄養素・ペットフードと療法食の基本的知識を学ぶ	2通	60		○			○		○		
○			動物形態機能学Ⅱ	小動物の体の構造と機能を理解する	2前	60		○			○		○		
○			比較動物学Ⅰ	日本の野生動物や実験動物の品種、飼育管理法、実践動物との関りについて学ぶ	2後	15		○			○		○		
○			動物看護関連法規	動物や獣医療に関連する様々な法規について学ぶ	2前	15		○			○		○		
○			動物感染症学Ⅱ	発生機序、原因となる病原体について理解し予防の大切さを伝える	2通	30		○			○				○
○			動物内科看護学Ⅱ	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な手技など、実践力を修得する	2通	45		○			○		○		
○			動物外科看護学Ⅰ	術前検査に関する意義・外科手術前後における基本的知識・手技を習得する	2後	30		○			○		○		
○			動物臨床看護学各論Ⅰ	主に犬・猫の疾病罹患や看護援助を理解する	2通	60		○			○		○		
○			適正飼養指導論	愛玩動物の効用や飼養目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動を学ぶ	2通	60		○			○		○		

(文化・教養専門課程 動物看護・管理学科(3年制) 動物看護専攻) 令和6年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			動物内科看護学実習Ⅱ	動物看護の基礎知識と手技の習得を目標とする	2後	60			○	○		○			
○			動物外科看護学実習Ⅰ	検体検査・生体検査に関する意義・基本的手技を身に着ける	2後	45			○	○		○	○		
○			動物臨床検査学実習Ⅱ	検体検査に必要な手技や機器の扱いなど実践力を修得する	2前	30			○	○		○			
○			動物生活環境学	人とペットとの共生のための生活環境のあり方を学ぶ	2後	30	○			○		○			
○			動物看護総合実習Ⅱ	動物病院で看護実践を学び、病院内業務の補助を行う	2後	45			○		○	○		○	
○			特別授業Ⅱ	学校行事、特別セミナー、卒業生講話など他者との関わりを重点とする	2通	262		○		○		○			
○			動物栄養学Ⅱ	犬猫に必要な栄養素・ペットフードと療法食の基本的知識を学ぶ	3通	30	○			○		○			
○			動物病理学	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。	3通	30	○			○			○	○	
○			動物薬理学	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。	3通	60	○			○			○	○	
○			動物外科看護学Ⅱ	主に薬剤の計算・受付・カルテや顧客管理について習得する	3後	30	○			○		○			
○			動物臨床看護学総論	動物看護過程の流れについて看護上の問題点を明確にする	3通	30	○			○		○			
○			動物臨床看護学各論Ⅱ	各々の機能障害をもつ動物に対し評価と介入を修得する	3通	60	○			○				○	
○			適正飼養指導論Ⅱ	災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて学ぶ	3前	30	○			○		○			
○			比較動物学Ⅱ	日本の野生動物や実験動物の品種、飼育管理法、実践動物との関わりについて学ぶ	3通	45	○			○			○	○	
○			動物外科看護学実習Ⅱ	術前検査に関する意義・外科手術前後における基本的な知識・手技について習得する	3前	45				○	○		○	○	
○			動物臨床看護学実習	基礎で習得した内容を基に実践能力に応用力を用いる	3通	60				○	○		○		
○			動物形態機能学実習Ⅱ	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ	3通	30				○	○		○		
○			動物看護総合実習Ⅲ	病院内業務の補助を行い臨床現場でチーム医療の一員としての実践力を修得する	3通	90				○		○	○	○	
○			特別授業Ⅲ	学校行事、特別セミナー、卒業生講話など他者との関わりを重点とする	3通	310		○		○		○			
○															
○															
○															
合計			44科目		2,545単位時間(単位)										
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
卒業要件： ①基準検定の取得 ②出席状況 総授業時間の出席率90%以上 ③成績評価すべてC評価以上 ④授業料等が全て納入されている事								1学年の学期区分			2期				
履修方法： ①評価試験 原則として科目毎に前期・後期終了時に評価試験結果とする。 ②出席状況 ③その他 授業態度・確認テスト・課題提出・検定試験などによって実施 ※原則として絶対評価								1学期の授業期間			26週				